

大野市脱炭素ビジョン 策定の進捗報告



～R3の取組状況報告～

大野市脱炭素ビジョンの全体像

R3 ステップ① 最終的な目標（絵姿）を描く

脱炭素と地域課題の同時解決が図られた、実現したい未来（2050年）の大野市

R4[~10月] ステップ② 脱炭素シナリオの作成 （CO2の削減目標、再生可能エネルギーの導入目標）

省エネ対策と再エネ導入（いつまでに、どの再エネを、どれくらい導入するか）

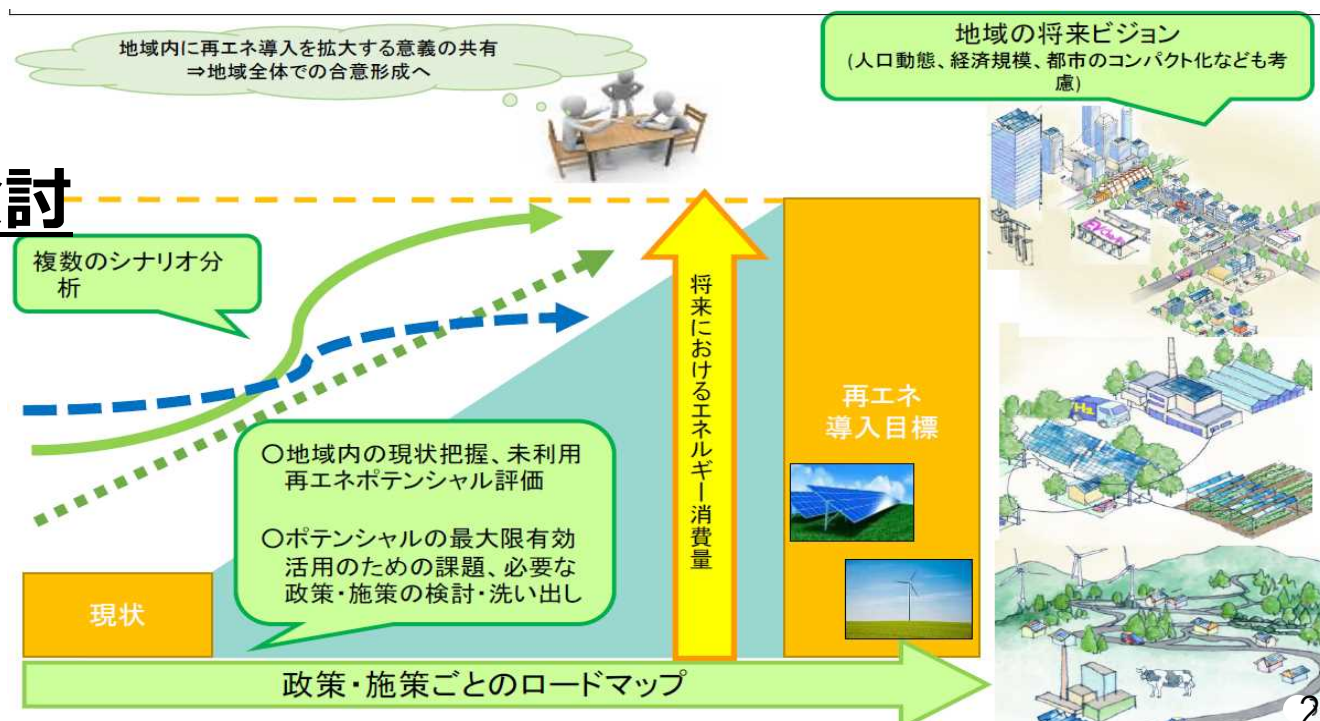
R4[~12月]

ステップ③ プロジェクト等を検討

目標を達成するための
実現方策、推進体制



R5[3月] ビジョン策定



脱炭素ビジョンの策定（R3年度報告）



大野市は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

R3 ステップ① 最終的な目標（絵姿）を描く

脱炭素と地域課題の同時解決が図られた、実現したい未来（2050年）の大野市

（1）現状把握

- ①特に対策を実施しない場合（なりゆき）の2050年の温室効果ガスの排出量と吸収量を推計
- ②第1回策定協議会を開催し、市内関係者・関係機関と情報共有すると共に、地域課題を抽出

（2）絵姿の作成

- ①市民ワークショップを開催し、「市民が思い描く2050年脱炭素なライフスタイル」について検討

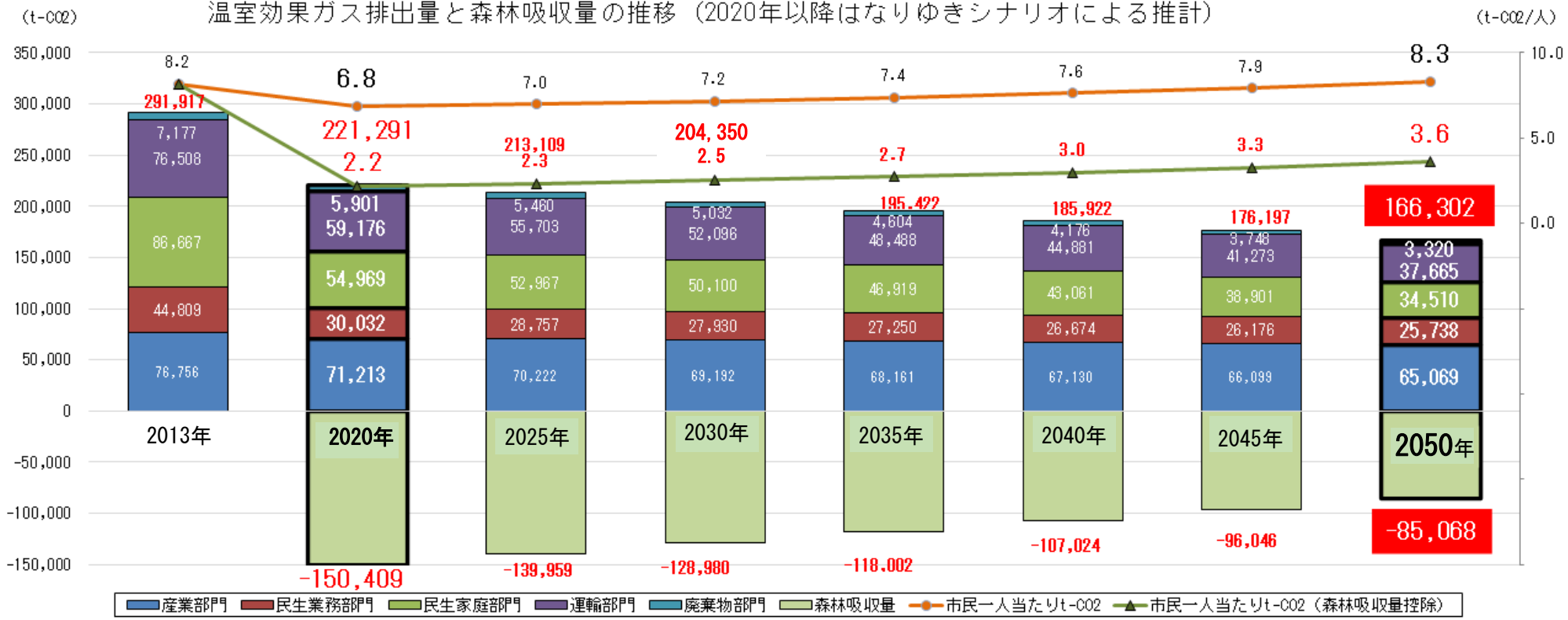
(1) 現状把握 市内のCO2排出量・吸収量の将来推計



大野市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

将来

温室効果ガス排出量と森林吸収量の推移 (2020年以降はなりゆきシナリオによる推計)



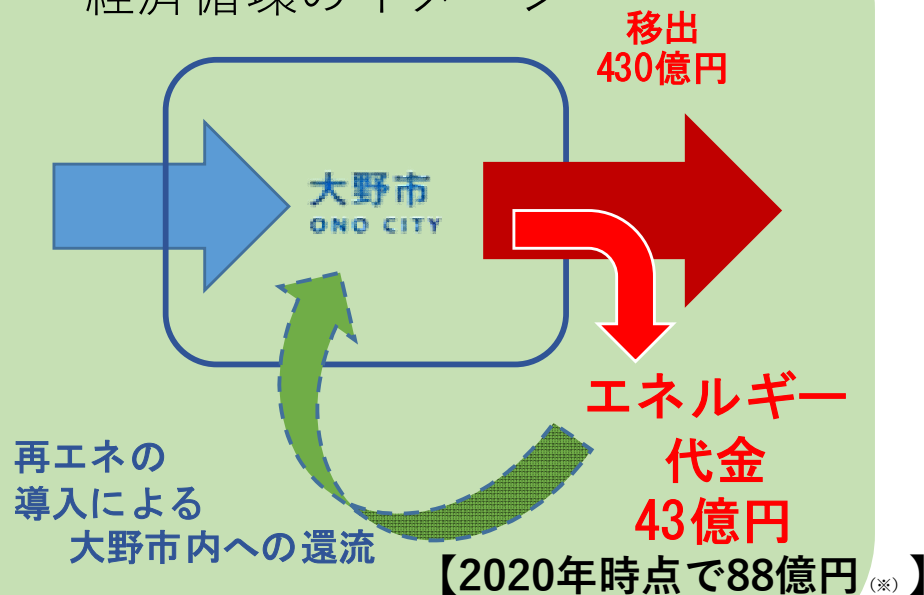
特に対策を実施しない（なりゆき）場合の2050年の温室効果ガスの排出量は人口の減少等の影響により現況から大幅に減少する一方で、市民一人当たりの排出量は年々増加。

森林による吸収量を控除しても、2050年には**約81,000 t-CO2**が排出量として残り、このままでは2050年に**カーボンニュートラルが達成できない**。。。。。

(1) 現状把握 地域課題の抽出



大野市の地域経済の現況と
経済循環のイメージ



資料：経済分析システム2015年度を基に大野市作成

(※) 大野市独自調べ

同時解決!!

地域課題
× 脱炭素

2050年ゼロカーボンシティの実現
= 市民の **ハッピーな暮らしの実現**

抽出された地域課題

【集落・家庭】

- ・人口減少、少子化、高齢化（担い手確保、集落活動維持）
- ・防災、減災

【経済】

- ・新たな高速交通体系等の活用
- ・道の駅「越前おおの荒島の郷」の活用
- ・新たな産業団地への企業誘致
- ・耕作放棄地の利活用
- ・森林施業維持拡大スキーム作り
- ・脱炭素産業の創出、企業連携

【交通】

- ・公共交通の維持、交通弱者対応
- ・自家用車等のエコカーへの転換

【エネルギー】

- ・エネルギーの地産地消
- ・未利用資源の利活用
(木質、家畜糞尿、生ごみ、稲わら、さといも、廃棄農作物など)
- ・エネルギー生産性の向上
- ・地域特性に即した再エネ導入（住宅密集地と農山村、積雪など）
(豊富な水資源、地下水熱など)
- ・石油燃料から電気への転換（家庭）
- ・電力消費量の削減、再エネ転換（業務）

(2) 絵姿の作成 ゼロカーボンシティ実現ワークショップ



大野市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。



目指すべき共通のゴール (2050年の絵姿) を市民ワークショップ (R4.3 全5回75名参加) を元に作成

市民が思い描く 2050年の 脱炭素なライフスタイル in 大野



- ・エコなシェアハウス、廃棄物や地域資源を有効活用する資源リサイクルなど様々な協働的営み
- ・人と人とのつながり
- ・やさしさ、相互扶助、連携、協力
- ・顔の見えるコミュニティ

など



- ◆結の精神、
- ◆人と人のつながり
- ◆美しい自然の活用 & 未来へつなげる

**自然・人・エネルギー・
未来のつながり**

※「参考資料2 大野市ゼロカーボンシティ実現ワークショップ実施結果の概要」参照

(2) 絵姿の作成 脱炭素ビジョン(絵姿)案



再生可能エネルギーや省エネ技術などを用いて 脱炭素なライフスタイルの実現を目指す

市民が思い描く 2050 年の 脱炭素なライフスタイル in 大野



自然・人・エネルギー・
未来のつながり

脱炭素ビジョンの策定 (R4年の業務)

R3 ステップ① 最終的な目標 (絵姿) を描く

脱炭素と地域課題の同時解決が図られた、実現したい未来 (2050年) の大野市

R4[~10月] ステップ② 脱炭素シナリオの作成 (CO2の削減目標、再生可能エネルギーの導入目標)

省エネ対策と再エネ導入 (いつまでに、どの再エネを、どれくらい導入するか)

R4[~12月]

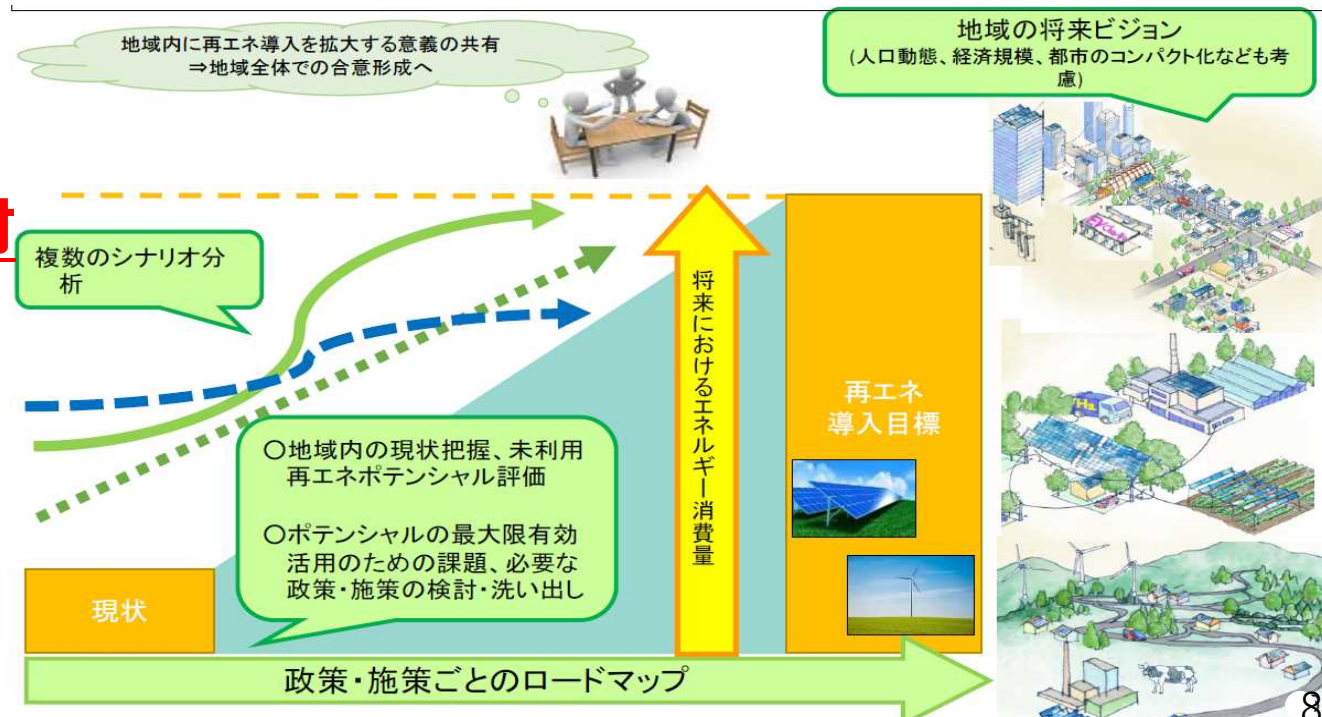
ステップ③ プロジェクト等を検討

目標を達成するための
実現方策、推進体制



R5[3月]

ビジョン策定



プロジェクト案の検討 (絵姿×地域課題×脱炭素技術)



大野市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。



市民が描く絵姿

市民ワークショップ (R3.3 全5回)

市民が思い描く2050年の
脱炭素なライフスタイル



反映
・実現

自然・人・エネルギー・
未来のつながり

脱炭素技術

大野市脱炭素ビジョン

【ねらい】

- ・地域課題との同時解決
- ・人、モノ、カネが地域で循環する
地域循環型社会の実現

市民の
ハッピー
な暮らし



- 再エネ導入目標
(何をどれだけいつまでに)
- 再エネ導入プロジェクト・スキーム案
- 推進体制 など

- コンサルタント・市内外の関係者等による提案
- ・経済性 (市民に還元される利潤、波及効果など)
 - ・実現可能性 (採算性、ポテンシャルの有無など)
 - ・影響力 (課題解決、水平展開、次世代活躍など)
 - ・独自性 (大野らしさ)

同時解決

地域課題(問題点)

【集落・家庭】

- ・人口減少、少子化、高齢化
(担い手確保、集落活動維持)
- ・防災、減災

【経済】

- ・新たな高速交通体系等の活用
- ・道の駅「越前おおの荒島の郷」の活用
- ・新たな産業団地への企業誘致
- ・耕作放棄地の利活用
- ・森林施業維持拡大スキーム作り
- ・脱炭素産業の創出、企業連携

【交通】

- ・公共交通の維持、交通弱者対応
- ・自家用車等のエコカーへの転換

【エネルギー】

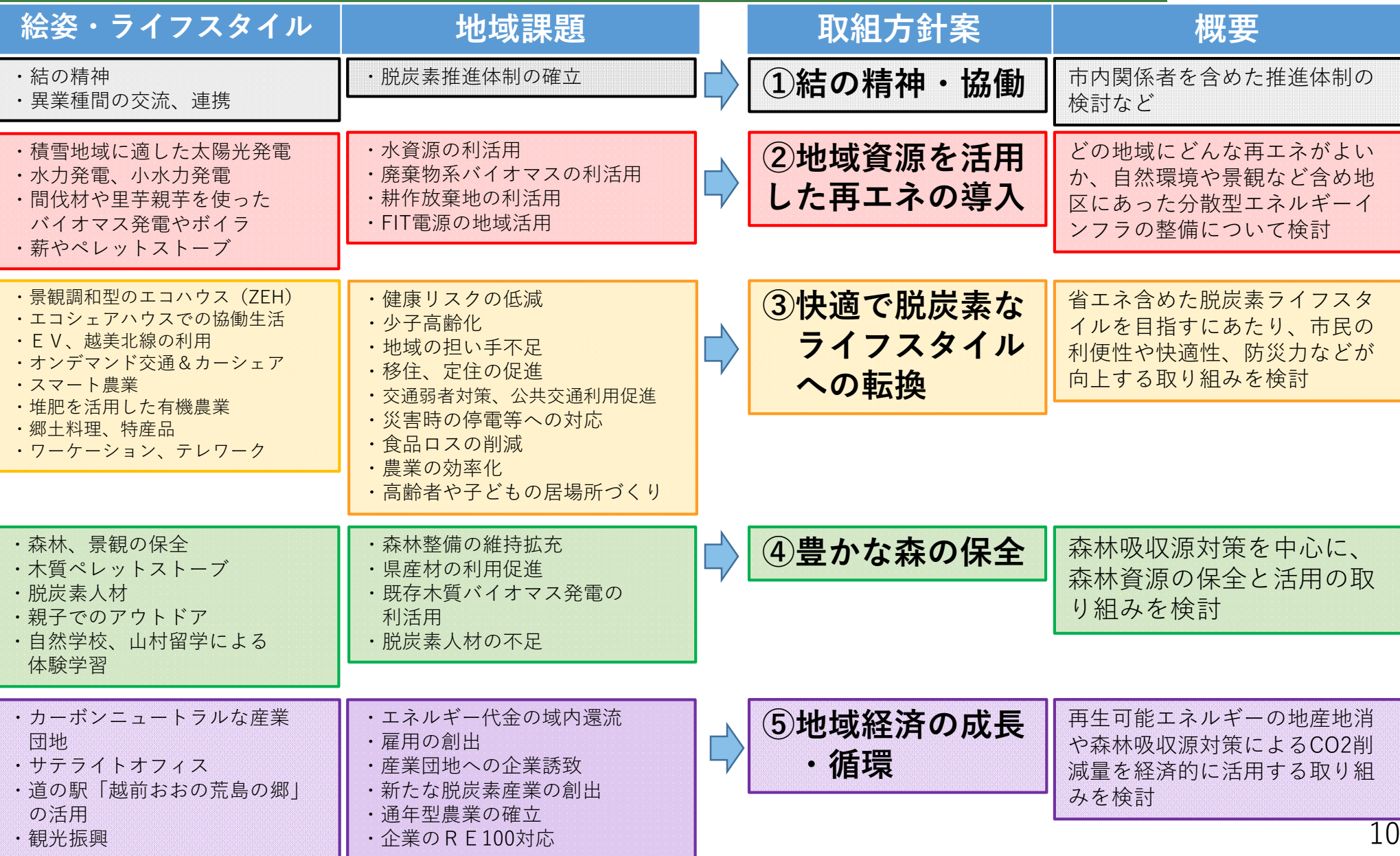
- ・エネルギーの地産地消
- ・未利用資源の利活用
(木質、家畜糞尿、生ごみ、稲わら、
さとも、廃棄農作物など)
- ・エネルギー生産性の向上
- ・地域特性に即した再エネ導入
(住宅密集地と農山村、積雪など)
(豊富な水資源、地下水熱など)
- ・石油燃料から電気への転換 (家庭)
- ・電力消費量の削減、再エネ転換
(業務)



プロジェクト案の検討 (取組方針案の設定)



大野市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。



プロジェクト案の検討 (10~11月)

取組方針案ごとに、対応する「同時解決する地域課題」・「市民が目指すライフスタイル」を踏まえ、プロジェクト（実現方策）案を検討

★市内関係者（策定協議会委員等）からのヒアリング など

取組方針	概要	対策（市民・事業者）	対策（行政）
①結の精神・協働	市内関係者を含めた推進体制の検討など	<ul style="list-style-type: none"> 推進協議会 結のエコ協賛店 	<ul style="list-style-type: none"> 推進体制の確立
②地域資源を活用した再エネの導入	どの地域にどんな再エネがよいか、自然環境や景観など含め地区にあった分散型エネルギーインフラの整備について検討	<ul style="list-style-type: none"> 太陽光発電の設置（住宅・工場・公共・耕作放棄地・営農型等） 小水力発電の導入 バイオマスボイラの設置 水素資源の利活用推進 	<ul style="list-style-type: none"> 再エネ設備の導入支援 PPA等初期投資の軽減スキームの構築 バイオマス資源の市内流通システム構築 水素資源の利活用推進 再エネ（卒FIT電源含む）の地産地消 再エネ関連事業者の育成 再エネ導入促進エリアの設定
③快適で脱炭素なライフスタイルへの転換	省エネを含めた脱炭素ライフスタイルを目指すに当たり、市民の利便性や快適性、防災力などが向上する取り組みを検討	<ul style="list-style-type: none"> 自家消費型再エネ設備の導入 高効率空調等省エネルギー設備の導入 新築住宅のZEH化 EMS等によるエネルギー管理の実施 EVの導入、EV活用地域交通の利用 エコドライブの実践 公共交通機関の利用 トラック輸送の効率化 公共施設への再エネ導入 ごみの減量化 	<ul style="list-style-type: none"> 省エネ、再エネ設備、EV車等導入伴走支援 脱炭素ライフスタイルの普及啓発 PPA等初期投資の軽減スキームの構築 スマート農業の促進、耕作地の集約化促進 地域金融機関との連携促進 公共交通機関の利便性向上 充電ステーション等の充実 自転車利用の普及啓発 公共施設への再エネ導入等による防災強化 生ごみ減量化、堆肥化等活用スキーム構築
④豊かな森の保全	森林吸収源対策を中心に、森林資源の保全と活用の取り組みを検討	<ul style="list-style-type: none"> 森林吸収源対策の推進 県産材、間伐材の利活用 環境教育による脱炭素人材の育成 カーボンオフセットの利用 	<ul style="list-style-type: none"> 機器導入等林業経営支援 県産材、間伐材の利活用支援 環境教育による脱炭素人材の育成 人材確保にかかる支援 カーボンオフセットの利用
⑤地域経済の成長・循環	再生可能エネルギーの地産地消や森林吸収源対策によるCO2削減量を経済的に活用する取り組みを検討	<ul style="list-style-type: none"> 省エネ農機の導入 事業所、工場、オフィス、店舗等での省エネルギー対策 エネルギーの地産地消による再エネの経済活用(卒FIT含む) カーボンオフセットの利用 	<ul style="list-style-type: none"> 省エネ、再エネ設備、EV車等導入伴走支援 再生エネの地産地消スキームの構築 カーボンオフセットの利用促進

